



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第35号

2023年 6月 6日

～一世紀を超えた住まいを解体して思うこと～

前回の「虹の通信」は振り返ってみたら、2年前でした。時折り覗いて頂いた皆様には大変申し訳なく思います。

法人本部での会議や朝礼では、日々感ずる場面や課題等を話したり解説したりしていますが、多忙な毎日と職員や地域の関係者の御協力でも増加した分、目が回るような毎日となかなか文章化には至りませんでした。やはり精神面に余裕がないと重みの有る思索的タブローを描くことが出来ません。

ただ、完全に自由で快適な毎日でいられば良いかと言えばそれも違います。多少のストレスも心の栄養素と思います。

さて、やっとの思いで4月28日に、建築してから130年程が経過してシロアリやゴキブリ、天井裏にはアライグマがたむろする木造自宅から、隣接地に完成した新築住居に引越しし、5月初めに旧自宅を大型機器で解体・処分しました。私の祖母の代から、父、私と約3代に渡って過ごした平屋の木造住宅で、60年前までは茅葺きであり、茅山という場所も持って冬場刈り取りをして保存し、補修をして大事に住まいとしておりましたが、非常に心の痛い小景でした。

現在の建築物の解体は、巨大な鉋状のパワーシャベルで一挙にではなく環境に配慮して、木材や竹等自然物と鉄、金属類、瓦、陶器やビニール類、土台や石類と細かく分別し搬出しておりました。一気に「グジャリ」とではなかったので少しホッとしましたが、何も無くなった空地を見ていると寂しい限りです。ただ、旧自宅にあった「大神御山の神棚」や「荒神山（火の神様）」、「恵比寿さん（財産の神様）」、仏壇の位牌や家紋版はそのまま移しました。余り購入して時間が経っていなかった薪ストーブも新たな居間に移設したので、冬場には火を焚きたいと思っています。

ただ、知合いの人達や近隣の施設職員からは、「新しいお住まいはどうか、良い住み心地でしょう！」とか言われますが、確にかかび臭かったり、埃っぽい所は無く、室内の空気が澄んでいるようには感じます。しかし大きく異なるのは「新築した住まいには豊かな時間が潜んでいないことです。長い歴史の経過から積み上がった時代の重さがありません。作っていけば良いのでしょうか～

以 上